

# くりすたる



2019. 5

## 「奈良女子大学化学系同窓会」をネット検索しましょう

第13期同窓会会長(14回卒) 山田 春 美

「奈良女子大学化学系同窓会」をネット検索してみましょう。同窓会の体制はもとより、同窓会誌「くりすたる」13号やバックナンバーの11号や12号なども閲覧できます。

同窓会のホームページは2016年2月に開設されたもので、今は亡き前会長の阿部百合子先生(同年12月逝去)や広報係のご尽力によるものです。

本同窓会名は2014年の理学部改組により、化学科が化学コースになったことから、2016年8月に「化学系同窓会」と改称されました。

同窓会の主行事は今までと大きな変わりはなく、①総会・懇親会開催、②くりすたる発行、③名簿管理(総会案内と会誌の発送にのみ使用)で、事務局と3年任期のクラス代表で行っています。第13期(2017年～2019年)会長としての最初の仕事は、各学年にクラス代表を選出させていただきよう願うことでした。余裕の世代はよろこんで引き受けていただけましたが、若い世代はなかなか「Yes」といっていただけませんでした。若い人達に気持ちよく同窓会に入ってもらえるにはどうしたらよいでしょうか。今後は、同窓会もネットを大いに活用して運営していく必要があります。会員の皆様のご支援、ご協力を

よろしくお願い致します。

2018年秋には慶ばしいニュースがはいりました。本庶佑京都大学特別教授が2018年のノーベル生理学・医学賞を受賞されました。夫君を支えてこられてきた旧姓小谷滋子さんは第13回化学科卒業生(生化学分野)です。お二人の縁は化学が取り持ったのですね。嬉しいことです。おめでとうございます。総会時に本庶滋子様を囲む会を予定しています。皆様のご出席をお待ちしております。

2016年第12期同窓会総会で確認・承認されたことを下記にまとめます。

- (1) 同窓会名称を「奈良女子大学理学部化学科同窓会」から「奈良女子大学化学系同窓会」に改称
- (2) 会則改正
- (3) 第13期役員について
- (4) 同窓会優秀学生賞の創設
- (5) 次期総会・懇親会は2019年8月に開催

会誌「くりすたる」、総会・懇親会案内、会費納入案内(会費500円/年)を同封します。会費は数年まとめて納入ください。また、寄付も歓迎しております。

### 奈良女子大学化学系同窓会

## 総会・懇親会のご案内

総会・懇親会は奈良女子大学構内で行います。また、「二〇一八年ノーベル生理学・医学賞受賞者 本庶佑を支えて」として夫人の本庶滋子様(旧姓小谷・十三回卒)の講演を予定しております。皆様お誘い合わせのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

### 日時 二〇一九年八月三日(土)

受付 午前十時三十分より  
総会 午前十一時～十一時五十分  
本庶滋子様を囲む会

懇親会 正午～午後四時四十分  
午後一時～三時

### 場所

奈良市北魚屋西町 奈良女子大学  
総会 文学部N棟一階N一〇一教室  
懇親会 文学部S棟一階ラウンジ

### 会費

五〇〇〇円(学生以外の同窓会員)  
五〇〇円(学生)

### 申込締切り日 二〇一九年七月十九日(金)

### 申込方法

同窓会ホームページからのお申し込み  
<http://naraiyo-kagaku-dousoukai.com>

### 同封のはがきに切手を貼って郵送

(ホームページからできない場合)

〒六三〇一八五〇六 奈良市北魚屋西町  
奈良女子大学理学部化学系生物環境学科  
化学コース 竹内孝江宛

## 第13期 役員・事務局（卒業回）

顧問	▶ 奥村晶子 (3) 中井正子 (9・大津在住) 新宅春代 (13) 久留島涼子 (14) 河野薫子 (14)
会長	▶ 山田春美 (14)
副会長	▶ 片岡みか (35)
広報係 (HP)	▶ 中井正子 (16・神戸在住) 片岡みか (35) 藤崎重子 (45)
庶務係	▶ 田嶋恵子 (16) 古谷貴美子 (28)
会計係	▶ 山形典子 (23) 伊吹幸代 (38)
住所録係	▶ 辻川直子 (37) 鎌田佳代子 (37)
くりすたる係	▶ 萩山和代 (30) 本多香代子 (32)
総会係	▶ 片岡みか (35) 宮津聰子 (35)
監事	▶ 新井博子 (院 S51) 諏訪美生子 (21)
奈良女子大学現職員	▶ 竹内孝江 (28) 中前佳那子 (58) 矢田詩歩 (62)

## 第13期 (2017年～2019年) 運営委員

住所録係	▶ 中井正子 (9) 福井千佳子 (13) 斎藤ふき子 (21) 石井麻里 (53) 釣沙也香 (61)
くりすたる係	▶ 井上久美子 (17) 松本和美 (33) 中山恵理 (41) 森亜希子 (45) 松岡いつみ (49)
総会係	▶ 磯部昌子 (25) 菅原幸子 (29) 田中輝美 (37) 津村恭子 (57) 鈴木杏奈 (65)

### 活動内容

2017年6月4日(土)に奈良女子大学で第1回運営委員会が開かれ、担当係が決まりそれぞれに分かれて事務局の担当係から詳細な仕事内容の説明がなされた。

### くりすたる係

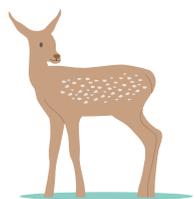
会報誌くりすたるの原稿を分担して運営委員に依頼した。その後頂いた原稿をレイアウトし印刷所に回し、メールで数回校正して発送した。

### 住所録係

各クラス代表に住所録更新をお願いした。締め切りは2018年10月末。これを基に総会案内、会報誌くりすたる等を発送した。

### 総会係

総会・懇親会は、2019年8月3日(土)に奈良女子大学構内で開催予定。数回打ち合わせを行った。



#### ◆事務局からのお知らせ

第14期 (2020年～2022年) 運営委員は次の卒業回(年)の方になります。  
18 (S45)、22 (S49)、26 (S53)、30 (S57)、34 (S61)、38 (H2)、42 (H6)  
46 (H10)、50 (H14)、54 (H18)、58 (H22)、62 (H26)



# 化学教室から

化学生物環境学科化学コース長 藤井 浩

奈良女子大学に着任して6年目を迎えました。着任した際には、ここに新任教員のご挨拶を書かせていただきましたが、あっという間に5年が過ぎ、昨年度と本年度は化学コース長を務めています。私が着任した年から化学生命環境学科として新しい組織がスタートし、途中で化学生物環境学科と学科名の名称変更を経ながらも順調(?)に進んでいます。この文章の題目にもありますように古くから化学教室と呼ばれた組織が、化学科となり、現在は化学コースとなっています。これを読んでおられる多くの方は、化学教室という名称に馴染みが深いことかと思えます。おもしろいことに、現在も化学コースの教員が集まる会議は教室会議と呼ばれています。昨年度からは、大学院の名称も化学生物環境学専攻となり、化学専攻もそれに合わせて化学コースと呼ばれるようになっていきます。本年度からは、修士課程2年までのすべてが化学コースの学生となり、化学科、化学専攻の学生がいなくなりました。来年度には、大学院博士課程もこれに沿う形で改組される予定です。化学教室の独自性がなくなったようで寂しく感じられる方もおられるかと思

ますが、融合は学問だけでなく大学をも含めた現在の流れなのではないでしょうか。

本年度からは、6年一貫教育という新しい教育システムが始まりました。これは、学部3年終了時に修士課程への進学を含めた合計6年間の一貫教育を行うコースを選択できるシステムで、より高い専門的な知識を持った学生への社会的ニーズに沿ったものと理解しています。このコースを選択した学生は、学部4年生から大学院修士課程の講義を受講でき、修士修了までにこれまでより多くの知識を習得できます。何名の学生がこのコースを選択するか心配なようでもあり楽しみでもあります。最近、大学は文部科学省からいろいろな形で変革が求められています。大学だけでなく、我々教員にも教育の効率化や国際化など大きな変革が求められています。しかし、大学、大学院で学生に伝えるべき、教えるべきことは、今も昔も大きな変わりはないと思います。奈良女子大学で学んだ知識や経験を生かして社会で活躍できる人材を一人でも多く育成したいと教員一同日々努力しています。

## 理学部 化学生物環境学科 化学コース教員組織

教育研究分野		教 員		
物性物理化学	物性物理化学・反応物理化学	吉村倫一 教授	矢田詩歩 助教	竹内孝江 准教授
	理論物理化学	衣川健一 教授	太田靖人 准教授	
分子創成化学	有機金属・錯体化学	棚瀬知明 教授	中島隆行 准教授	中前佳那子 助教
	有機合成化学	片岡靖隆 教授	浦 康之 准教授	
生命機能化学	生命有機化学	中澤 隆 教授	三方裕司 教授	松本有正 助教
	生物無機化学	藤井 浩 教授	本田裕樹 助教	高島 弘 准教授
物質機能化学	機能性材料化学	梶原孝志 教授		



# 退職によせて —奈良女子大学での38年間—

岩井 薫

私は1979年1月、理学部化学科高分子化学講座（竹村富久男教授、山本正夫助教授）の助手として着任しました。約10年後1989年3月に竹村先生が、その10年後1999年3月に山本先生がご退官されました。それから18年、2017年3月に自分自身が定年退職する時がやってきました。本稿ではお世話になった奈良女子大学での38年間をごく簡単に振り返ってみたいと思います。

私が着任した頃の化学科は、無機・分析化学、有機化学、物理化学、高分子化学、生物化学の5講座体制であり、高分子化学研究室には毎年6～8名の学生さんが配属されていた。当時は、まだ大学院を目指す学生さんは非常に少なく4年生で巣立っていくのが普通の時代であった。この頃の大学には穏やかな時間がゆっくりと流れていた。

竹村先生が退職されたのち、高分子化学講座は、山本先生、私（助教授）、竹内孝江助手の3名体制となった。山本先生のご支援もあり、1990年10月から1年間のベルギー（K. U. Leuven, Prof. De Schryver）留学の機会を得た。この留学は、研究だけでなく教育の大切さや自分の人生を考える契機となった。この頃になると大学院への進学者も増え、山本先生が退職されるまでの10年間には研究室から30名の修士修了生が巣立っていった。いま振り返るとこの頃が一番、研究・教育に適した良い時期であったように思える。

化学科では1996年度に学科改組があり、基幹化学講座と機能化学講座の2大講座制となり、山本先生の退職後は、実質的にも各教員が個々の研究室を運営するように変化した。研究室に配属されてくる学生さんは毎年1～2名となり、また、2004年4月の国立大学法人への移行後は、経費の削減等で理学部的な基礎研究の環境は年々厳しくなっていた。対応策として、実用化を目指した国のプロジェクト研究費を獲得したり、外部から研究員やポスドクを迎えたりした。幸い2011年9月には中村伊都子助教を研究室スタッフとして迎えることができ、大いに助けられたが、一方で、この頃には学長補佐や理学部長などの管理運営の職務が回ってくるようになっていて、必然的に研究・教育以外のことに費やす時間が増していった。当時の研究室の学生さんたちにはいろいろと不自由させたことと思う。管理運営の職務から解放されて迎えた2年の再雇用期間には、小規模なものではあったが奈良女子大学で国際会議を



開催する機会をもつことができたのも良い思い出である。

このような奈良女子大学での38年間の研究・教育生活であった。研究者としては、まだやり残したこともあったが、学会の広報誌等でも取り上げられるような成果が得られたのは幸運なことである。また、教育者としての気持ちを引き起こしてくれ、その教育に呼応してくれた多くの素晴らしい学生さんに巡り合えたことも非常に幸せなことと思う。在職時はかれこれ20年に渡り近隣の高校生を大学に招いたり、出張講義に出かけたりして若い世代のための科学教育支援に努めてきたが、定年退職により研究生活を卒業した現在は、放送大学の学生さんなどを相手に化学の裾野を広げるべく科学普及の機会をもっている。もうしばらく頑張りますかね。



### 菅江先生のこと

23回卒 浅野 純子



学生時代、先生方は遠い存在でしたが、菅江先生が母と同じ昭和4年の5月生まれと伺い、不思議と親近感がわきました。先生は、何事にも慎重で、どなたかが「石橋をたたいても渡らない」という風に仰っていたように覚えています。

修士論文のための最後の実験に、RIを使いたいと申し出たのですが、なかなか許可されず、締め切りを控えてはやる気持ちを抑えて待ったのを覚えています。学生を預かる身としては慎重にならざるを得なかったのですが、当時は「なぜ」と強く思いました。

卒業後は、同窓会の色々な集まりでお目にかかることがあり、少しでもお話しできるのが楽しみでした。膝が痛い和仰りながら、いろいろな機会に奈良まで来てくださったのを懐かしく思い出します。

### 菅江先生

23回卒 石川 桃代

菅江先生といえば、皆さんの目に焼き付いているのは、白衣姿の腰にきれいとはいえないタオルをぶら下げ、夕刻になると決まってミーティング室のトースターに向かい、食パンを焼いてらっしゃるお姿でしょう。このスタイルがいつから始まり、いつまで続いたのか判りませんが、私達の世代には忘れられないお姿です。

在学中の菅江先生は教授然とされており、私には近づき難い存在でしたが、卒業後は、夫を亡くしての仕事探し、長いブランクの後の不安な研究生活、博士号取得といった私の人生の節目節目に、先生は親しげに声をかけて下さり、私は先生の優しさに触れる事ができました。一人の人間として親しくさせて頂いたことを幸せに思っています。

最後にお会いした先生のはにかみ顔が、今も目に焼き付いております。

### 菅江謹一先生 追悼

第36回卒 生化研究室一同

大学生活の最後の1年に、ご縁があり私たち6人が生化の研究室に配属になり卒業研究をさせていただきました。研究は菅江先生が米国に留学された時の内容のもので、細部にまでこだわりがあり、米国時代と同じ高価な試薬を使用して研究をさせていただきました。また、先生は、研究に関する情報収集も熱心で、毎日図書館に行くのが日課でした。そこでは、論文をたくさんコピーして、それをカードに記入し、きれいに整理しており、実験や輪読について相談に行くと、そのカードを見ていくつか選んでくださったのが印象的でした。教授室には、先生との相談のために



行きましたが、毎回、とても緊張していたのを思い出します。怖い先生というわけではなく、厳しく叱られた記憶もなく、思い出すのは先生の笑顔なのですが、教授らしく凛とした雰囲気をお持ちの先生でした。

しかし、夕方になると白いポロシャツ、白いダブダブの短パンという若々しい出で立ちでテニスをされていました。普段は足が悪く、歩きづらそうなのに、「テニスになると足が動くんだ」と楽しそうにお話されていたのが懐かしいです。テニスをするからなのか、意外と食いしん坊だったのか、研究室のお茶室でバナナ、パン、お餅、カレー、ドーナツをおいしそうに食べている先生の姿が思いだされます。

先生と過ごしたのは、たった1年（あるいは3年）なのですが、研究を教えていただくだけでなく、研究以外のところでも愛情たっぷりに接していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。先生が亡くなったことは非常に悲しく、いまだにお元気だったころのお姿ばかりが目には浮かびます。どうぞ安らかな旅立ちでありますよう、心よりご冥福をお祈りいたします。



### 阿部百合子先生を悼む

37回卒 辻川 直子



「貴女やりなさい。同窓会はね、歳を取ってからが良いのよ。」阿部先生のこの言葉をきっかけに私は化学科（現在化学系）同窓会事務局に関わるようになりました。2009年に定年退職された先生は、在職中から同窓会事務局の運営に携わり、2010年からは会長を務めてこられました。プリンストン大学に在籍された1年を除き、44年間を母校で過ごされた先生にとって化学科への想いは誰よりも深く、若い人達が参加しやすい同窓会の継続を強く望んでおられました。大学生協での総会開催、ホームページ開設、事務局スタッフの増員など様々な改革は先生の功績です。持病に加えて、定年後はガンとも闘いながら、最後まで同窓会に尽くしてくださいました。先生は教育・研究においては厳しく、一見すると取っ付きにくい印象を与えますが、その内面は朗らかで、大変心優しい方でした。そして、信州人らしく本物の忍耐強さをお持ちでした。先生から託された物は大きく、取り組むべき課題は数多ありますが、在りし日の先生のように一步一步進んでいけたらと思っています。改めて先生に感謝すると共にご冥福をお祈り申し上げます。



### 阿部先生を偲んで

46回卒 池戸 美加

阿部先生がご逝去されたとの連絡を受けたのは12月末の寒い日でした。その数日後、先生からこちらを気遣う一言が添えられた年賀状が届きました。体調が芳しくなかったであろうに、年始に届くよう投函された、先生の誠実さとやさしさが懐かしく、温かい気持ちになりました。

阿部研究室は先生のお人柄もあり、アットホームな雰囲気、大学近くのレストランや、先生のご自宅で親睦会をよく開きました。研究のこと、将来のこと、恋愛のことまでいろいろ話しました。先生は私たちと同じ目線になって話を聞いてくれ、時には人生の先輩としてアドバイスをくれました。

そんな中でも研究に対しては厳しく、実験結果に対して、確かな考察ができるように、何度もトライするよう指導されるなど、度々、私の研究に対する姿勢を正してくれました。

いつも私たちを優しく見守り、みな大事にしてくださいました。阿部研究室で過ごした時間は本当に楽しかったです。先生、ありがとうございました。



## 継続は力なり

5回卒 楠田 幸子

パソコンとの出会いは、ボランティア活動の視覚障害の方のための録音図書を作っていた時の、テープからディスクへの変換がきっかけだった。なんとかデジタル録音の方法を習得し、それ以来その恩恵に与る所が大きい。結婚、出産を機に専業主婦になり日常生活でパソコンを必要とする場面は少なかったが、くりすたる10号の同窓生だよりに「自転車に乗って」を寄せたのは、パソコン入力によるものだ。

その頃、自作した私の名刺は、やはりパソコン入力で、縦長、横書。中央に氏名とその下に当時愛用していた、クロスバイクのカラー写真、更に下に🏠、☎、✉と印し、肩書は左上端に虹色グラデーションを施した文字で、ふあ

いばーあーていすと(A)、おんせいやくぼらんていあ(B)、しまめぐりさいくりすと(C)と念が入っている。

そして80才代半ばの今、Aは手編み、手織りでセーターや帽子を作って楽しみ、Bは府立図書館へでかけ視覚障害の方のための本を老眼鏡と補聴器の助けをかりて読む。Cはさすがに遠出は避け買物運搬に利用するのみだ。

昭和一桁生まれで成長期が戦中戦後と重なる私が元気でいられるのは、先ず両親に感謝だが、A、B、Cをバランスよく続けてきた成果であり、“継続は力なり”ということだと思ふ昨今である。



## 木曾路をたずねて

9回卒 中井 正子

2018年10月21(日)、22日(月)、岐阜県中津川から馬籠宿、妻籠宿と木曾路を旅した。きっかけは、9人のメンバーで、月1、2回行っている読書会で、島崎藤村の「夜明け前」4巻を読み終えたことにあった。藤村は多くの小説を書いている。今回は一度小説が書かれた現場を訪ねてみたいということである。まず中津川でJR列車を降り、町を散策。中津川で一泊。翌日はバスと電車で馬籠、妻籠に

向った。妻籠宿は中山道69次の内、江戸から数えて42番目、京と江戸を結ぶ「木曾路」とも呼ばれ、参勤交代や皇族のお輿入れにも利用、交通の要衝の宿場町でもあると聞く。藤村の元実家のところに建てられたという藤村記念館にも寄った。藤村の「夜明け前」「嵐」などの作品原稿や蔵書、遺愛品、周辺資料、明治大正詩書稀観本コレクションなど約6千点を所蔵、藤村のこを知るのにはいい場所である。近くの永昌寺には藤村一家の墓があった。短い時間であったが豊かでいい旅であった。



## ダオの教え＝現代版道教

13回卒 藤井 敬子

人生終盤に、“ダオを理解し、修練すれば、不死、不老が可能”と言う教えに出会いました。

ダオは、宇宙の根源。私達全てが、宇宙の根源(Source)から生まれ、宇宙の根源に戻る事が可能です。

又、私達がダオと完全に繋がると、人生の全ての面で、成功が可能です。

繋がりを妨げているのは、私達の、魂、心、気、体の汚染。

見ざる、聞かざる、言わざる、それにもうひとつ、思わざるを実践すれば、今後は、汚染を防げ、過去の汚染は、人類に奉仕すれば、少しずつ、除去できます。

興味がある方は、Dr. & Master Shaの最新書“ Tao Classic of Longevity and Immortality - Sacred Wisdom and Practical Techniques”を読んでみてください。

## 石仏彫り

17回卒 井上 久美子

私たち17回生は、ついに72歳になりました。化学科16名のうち一人は逝去され、15名は、この年(平成30年)の異常気象、豪雪・豪雨・台風・地震を何とか乗り切りました。

卒業して半世紀、50年間のそれぞれの人生は、過去の大学生活を遠い記憶の外に追いやり、日々、老いに向かっ

て各自の道を歩んでいます。当然ながら、お互いの連絡はだんだん疎遠になってきています。

というわけで、わたくし井上久美子がこの夏どのように過ごしたかを、書いてみます。

金沢の中心から少し外れた小立野寺院群にある「如来

寺」で、石仏彫りをしました。最初は参道改修工事により使われていた敷石を、そしてここ数年は無縁墓となり、放置された墓石を材料にして20名あまりの善男善女(?)が、和気あいあい会話を交わしながら境内で、いろいろな思いや願いを石に託して数か月をかけ彫り上げています。この夏は特に暑く体温以上の気温の日もあり、外の境内の桜の大木の下での作業はさぞかし……と思っていたんですが時々吹く風を、これぞ徳風と感じ、昔のクーラーもない夏を思い出しながら彫っていました。

石仏は開眼供養され、如来寺墓地公園に安置されました。真ん中の仏様が私の作です。

金沢にいらしたときは、如来寺まで足を延ばしてみてください。



## 日々是好日

21回卒 橋本陽江

2011年に退職して7年が経つ。在職中は家庭も忘れて仕事に没頭した。退職後は恩返しだなと思った。町内会の役員を引き受け、佐保会兵庫県支部事務局の役員を引き受け、自分にできる精一杯で活動してきた。その一方で自分のバックボーンとして50歳から始めた茶道を選んだ。気分転換で始めた茶道は奥深かった。そして努力が実るところだった。「たゆまざる歩み恐ろし蝸牛」百歳を超えて生きた彫刻家北村西望の俳句に出逢い、茶道もこ

れだと思った。今年7月に自分が席主をつとめる初めての茶会を催すことができた。台風12号が近畿を襲った月末、準備の28日に迷いながらも開催を決め、29日当日4時半に明石に上陸して西(!)に向かう台風を後ろに従わせながら大雨の中、会場の姫路に向かって車を走らせるスリル。8時半には雨風がおさまり9時半にはセミの鳴き声ももどり、106名の方がおいでくださった。そして生涯忘れられない日になった。

## 登録有形文化財(建造物)

25回卒 磯部昌子



昨年、久しぶりに近鉄奈良駅に降り立った時、ふと大学時代の下宿先を訪れてみたくなりました。

昭和48年3月、大学の学生課に紹介された下宿先は大きな格子の

家。路地に面した玄関から中にお邪魔すると奥に続く吹き抜けの土間があり、その向こうに中庭、さらに蔵が見えました。その蔵の2階に私が4年間住むことになる部屋があったのです。

近鉄奈良駅からJR奈良駅に向かう途中、開化天皇陵の近くに、その大きな格子の家は当時とほぼ変わらずに

そこにありました。そして、表札の横に1枚の標識「登録有形文化財(建造物)」を見つけました。これは、50年を経過した歴史的建造物のうち一定の評価を得た建物にこの標識が取り付けられます。私の下宿先は奈良における伝統的な町家の形式を踏襲した大正期に建てられた家で、主屋、渡廊下、離れ、煉瓦塀、そして私が暮らした蔵が、平成26年文化財に登録されたそうです。

現在奈良市にはおよそ100件の登録有形文化財(建造物)があると伺い、大学時代に歩いた路地に歴史的な建造物を見つける機会をまた持ちたいと思いながら下宿先を後にしました。



## 和田悟朗先生の教えに思う

29回卒 菅原幸子

和田研究室に入って1ヶ月の頃、先生はおっしゃいました。「頑張っていますね、でも頑張り過ぎないように。初めに頑張り過ぎると後で息切れし、結果として良い研究になりません。」また、『絶好調』が流行語だった時には「絶好調の自分を基準にして、少し結果が悪いと落ち込んだりもっとできるはずだと自分を追い込む人がいますが、それはおかしい。絶好調より少し悪い状態が本来の姿であり、それで良いのです。」とも。

最近データ改ざんや捏造のニュースをよく耳にします。もっと速くもっと良い性能を、と急かされ頑張り過ぎた揚句、データの改ざん・捏造に追い込まれたのかもしれない。和田先生がその場にいらっしゃったら、優しく鋭く警鐘を鳴らされたことでしょう。

このような先生の教えは、研究に限らず家事や子育てにも通じます。頑張り過ぎずありのままの姿を愛し信じて、これからも暮らしていこうと思います。

## 少女よ大志を抱け

33回卒 本多尚子

そろそろ人生も後半に入るところから米国に住み着いています。大いに盛り上がった大統領選挙も現地で身近に感じることができました。敗れたものの選挙を盛り上げた立役者のヒラリー・クリントンが私の住むボストン郊外にある超名門女子大、つまり米国版の奈良女(笑)の出身ということに親近感を覚えて応援していました。

選挙戦真っ只中の頃、ヒラリーさんが卒業生代表で行った演説の音声大学のHPに公開されたのを聞いてみたのですが、私の英語力ではほとんど聞き取れなくても「不可能を可能に」という素敵な言葉とともに強い志が伝わって来るようでした。その声は今のだみ声とは違い若く透き通っていて少しおどおどとした話し方にとてもピュアな女子大生の姿が浮かんで来て、なにか郷愁をそそられました。

思い返すと私が入学したころには何か化学という形で人々の生活を変えるような事が出来たらいいなと夢をみていたのですが、現実にはなんとかぎりぎりお情けで

卒業させてもらったような劣等生で夢もしゅーっとしぼんでしまい、いつのまにやら忘れて行った気がします。

ヒラリーさんが大統領選の敗北演説での女性達へのメッセージを聞いた時に、長い政治家人生で色々と濁ったりゆがんだり蓄積していたものもあるだろうけど芯の中ではずっとあの女子大生の頃の志を変わず持ち続けていたのだなと心打たれました。

あのこじんまりしたキャンパスや教室や実験室など時間の違いはあれど同じ空間を共有した奈良女の卒業生たちの一人でも多くがずっと変わらぬ志を持って大きく膨らんで高く舞い上がって行くのを見られたなら、私の気持ちも一緒に昇っていける気がします。



## 生徒から学ぶ

37回卒 田中輝美

大学を卒業後、企業で3年半働いた後 出産のため家庭に入り20年間専業主婦として娘3人を育てました。末娘が中学校へ入学するのにあわせて仕事を再開し、現在は常勤講師として大阪市の中学校に勤務しています。働き始めた頃は無我夢中でしたが、少しずつ慣れてくると悩んだり迷ったり落ち込んだり。そんな時でも、癒されるのは生徒たちとの何気ないふれあいです。目が合っ

てにっこり挨拶したり、大爆笑でクラスが一体になったり。そうしたことでもとても元気が出ます。また大阪の生徒はとても正直で、授業の評価は手厳しいです。下を向いて反応がないときは、つまらないかわからない。目がキラキラ輝いて集中しているときは、理解も進みおもしろい。もっと聞きたい! をアピールします。そんな時はこちらもワクワクします。生徒には学び続ける人になってほしいと願いながら仕事をしていますが、実は私から彼らから元気をもらい、学ばせてもらっているのです。

## やさしい45期生

45回卒 森 亜希子

同窓会の運営委員をお引き受けして、最初の仕事は同窓会名簿の更新作業でした。ほとんどの人はメールで連絡が取れたのですが、メールが届かない人には、季節から暑中見舞いのハガキを送ってみました。すると、ほぼ全員から返信があり、久しぶりにみんなと連絡が取れました。

特に前任の委員さんは、親身になって助けてくれました。仲の良い友達に積極

的に連絡を取ってくれた人もいました。返信も、近況報告はもちろんのこと、西日本豪雨や大阪北部地震の被害を心配してくれる声も多くありました。長年会っていないにもかかわらず、やさしく声をかけてくれる同期に、素晴らしい仲間と大学生活を共にしていたんだと改めて感じるとともに、自分もその一員で、どんな時も優しくありたいと強く思いました。いつの日かみんなと再会できたらいいなと思っています。



## 毎日、理科室

53回卒 石井麻里

私は、現在、奈良県内の中学校で理科教員として勤務しています。大学在学中は熱心とは言えない学生でしたし、卒業後もしばらくは化学とは全く関係のない職業についていましたが、私はやはり理科が好きだったんだな

と今になって感じています。昨年度は県の指定研究に取り組みさせていただき、新しい理科の授業の形に挑戦しました。取り組みを通して、生徒自ら「発見した! 分かった!」という気持ちを持つと「理科が好き! 楽しい!

もっと調べたい!!」と思う生徒が増えることを改めて実感しました。最近では、理科以外の仕事の割合が多くなってきてしまいましたが、教え子が奈良女の同窓生になる日がいつか来たらうれしいなと思いつつ、「毎日、理科室」をモットーに、実験・観察結果から自ら考え、理科が楽しいと思える生徒を一人でも多く増やすべく、力を

尽くしたいと思っています。



## 研究室旅行

57回卒 津村 恭子 (旧姓 本山)

化学科を卒業し、早いもので10年が経とうとしています。私は在学時、塚原高島研に所属しておりました。

卒業後は全国各地に散らばってしまいましたが、毎年研究室旅行と称して当時の研究室メンバーで一泊二日旅行に出かけて交流を続けています。

大学時代と変わらずたわいのない話題で盛り上がり、

愚痴や悩みを相談したり、お互いの近況を聞くたびに刺激を受けています。この関係を卒業後10年経っても変わらず続けていける仲間に出会えたことに感謝しています。30代になり皆、仕事や家庭と忙しくなかなか全員揃うことがないですが、いつか全員揃って研究室の思い出話をしたいと考えています。

## 「奈良女」の繋がり

61回卒 釣 沙也香

4回生から3年間、高分子化学研究室の竹内孝江先生のもとで質量分析学を学んだ後、分析化学に関わる職に就きました。社内には数名、奈良女の卒業生がいらっしゃいますが、学科が違っても「奈良女」ということで、思い出話やあるある話も含め、色々話しかけてくださいます。また社外でも「奈良女」で話しかけていただけることが度々あります。

先日(といってもかなり前ですが)開催させていただいた竹内先生の還暦のお祝い会では、先生や学生さんと研究室生活の話をしたり、先輩方から同窓会の話の聞いたり、と話の尽きない楽しい時間を過ごすことができました。私が在

籍していた頃と変わっていないなあ…研究室が広がっていて羨ましい!など、学生の頃に戻ったような、とても懐かしい気持ちになりました。

研究室の同窓会や佐保会の集まりのお誘いも度々いただいておりますが、まだ一度も行けていません。なかなか1人では行きにくいので、友人と相談しつつ…参加していきたいです。気さくでアットホームな「奈良女」ならではの縁や繋がり(もちろん友人・化学科同期たちも!)をこれからも大切にしていきたいと思っています。

## あ と が き

令和最初となります「くりすたる」14号をお届けします。編集に係らせて頂き、変わらぬ同窓生の前向きさを感じ、大変嬉しく思っております。原稿にご協力頂きました先生方同窓生の皆様、本当にありがとうございました。くりすたる発行に際して竹内先生、30回卒萩山さん、32回卒本多さんに大変お世話になりました。編集委員一同感謝しております。

### ●くりすたる編集委員

#### 17回卒 井上 久美子 (加藤)

昨年のノーベル生理学・医学賞の本庶佑教授の奥様(滋子様)が我が奈良女子大学化学科卒であることを知り(全く関係ないとは思いますが)、かなり嬉しく誇りに感じました。しかも、生化学、菅江先生の教室だったとは。そして、この同窓会誌「くりすたる」の編集に携わることのできたことを感謝し、この紙面を借りてお礼を申し上げます。

#### 33回卒 松本 和美

お忙しい中「くりすたる」への寄稿、誠に有難うございました。年代、生活環境も様々ですが、素敵に積み重ねて来られました日々の体験、思いを同窓生に伝えていただくことで、皆様の心に響き、励まされたことと思います。また、昨年は全国各地で甚大な被害が相次いだ年でもありました。同窓生の被災を知り、安否が気遣われましたが、復興に向けて力強く歩まれている姿に、こちらが勇気づけられました。一日も早く普段通りの生活が送れることを願っています。

#### 45回卒 森 亜希子

お忙しい中、原稿を寄せてくださった方々に、御礼申し上げます。お一人お一人が、大学への愛情を持って過ごしておられることをひしひしと感じました。くりすたるを読んで、大学時代のことを思い出していただけただけなら幸いです。

#### 49回卒 松岡 いつみ

編集に係らせて頂く中で、久しぶりに同窓生の皆さんと連絡を取り合うことができ、ピチピチの女子大生だった頃に一気に気持ちが若返りました。古都奈良の歴史ある母校で共に過ごしたこのご縁を、これからも大切にしていきたいと思っています。ご多忙のところ協力してくださった方々に、この場をお借りし深く感謝申し上げます。

くりすたる編集委員代表 41回卒 中山 恵理